

市況概要

※月別（ ）内は前年同月比

- (1 月) 依然コロナ禍による輸入品が品目問わず減少傾向がみられた。原油高の影響もあり、国産品の出回りも悪かった為、全般的に品薄感がみられ、結果、全国的な高値相場となった。
- | | | | | |
|----|-----------|---|----------|----|
| 数量 | 55,846 | 本 | (11.4%) | の減 |
| 金額 | 6,316,405 | 円 | (18.5%) | の増 |
- (2 月) 2月に入っても断続的降雪で、一般小売は鈍化。葬儀需要は顕著にあったが、祭壇が小さく盛花も限られた分だけで、花そのものの本数を使わず苦戦。
- | | | | | |
|----|-----------|---|---------|----|
| 数量 | 36,540 | 本 | (6.9%) | の減 |
| 金額 | 3,689,787 | 円 | (9.8%) | の増 |
- (3 月) 卒業式、春彼岸、人事異動と最需要期ではあるが、国内産に関しては、原油高の影響で十分な加温出来ず、例年に比べ数量減少。輸入品に関しては、ドル建てでの支払いになる為、円安の加速で思うように輸入出来ないジレンマがある。
- | | | | | |
|----|------------|---|----------|----|
| 数量 | 219,844 | 本 | (21.0%) | の減 |
| 金額 | 16,605,206 | 円 | (17.8%) | の減 |
- (4 月) ロシアによる侵攻、原油高、円安等により、輸入品の入荷量が極端に減少した為に、全般的に高値基調となっている。
- | | | | | |
|----|-----------|---|----------|----|
| 数量 | 134,838 | 本 | (17.2%) | の減 |
| 金額 | 1,736,481 | 円 | (2.8%) | の減 |
- (5 月) 原油高や円安により、輸送コストや資材等の価格が上がり、また、輸入品の仕入れ単価も値上がりする為、輸入品が減少し、品薄感から全般、高値傾向で推移した。
- | | | | | |
|----|------------|---|----------|----|
| 数量 | 137,405 | 本 | (17.3%) | の減 |
| 金額 | 10,061,266 | 円 | (18.2%) | の増 |
- (6 月) 切花では円安により、物日以外の輸入品の減少が目立ち、国産品は、やや前進化傾向が見られた。鉢物では、公共事業の苗の植え込み等で注文が増量し、また、贈答用の胡蝶蘭も同様に注文が多かった。
- | | | | | |
|----|-----------|---|---------|----|
| 数量 | 53,596 | 本 | (7.5%) | の減 |
| 金額 | 4,419,381 | 円 | (7.7%) | の減 |

市 況 概 要

※月別（ ）内は前年同月比

- (7 月) 切花では円安により、物日以外の輸入品の減少が目立ち、国産品は、やや前進化傾向が見られた。
鉢物では、公共事業の苗の植え込み等で注文が増量し、また、贈答用の胡蝶蘭も同様に注文が多かった。

数 量	175,981	本 (24.3%)	の減
金 額	3,573,295	円 (7.1%)	の減

- (8 月) コロナ第7波で多数の感染者が出たが、経済優先の政府の考えから、それまで止まっていたイベントや祭り、または旅行などに規制がなくなり色々な面で需要が上向き、活性化されたように思われる。

数 量	35,092	本 (3.0%)	の減
金 額	12,066,181	円 (12.9%)	の増

- (9 月) 今までに記憶にない位の大雨が続き、作付けに大きな影響を及ぼし、特に東北圏内の入荷量が減少した。

数 量	73,395	本 (8.4%)	の減
金 額	3,462,844	円 (4.8%)	の減

- (1 0 月) 県内産は今月で7～8割が終了となり、この先は暖地物に産地が移行されるが、輸送コストや暖房にかかる燃料の高騰で、ますます集荷が厳しくなりそう。

数 量	60,769	本 (9.7%)	の減
金 額	8,102,473	円 (15.3%)	の増

- (1 1 月) ロシアによるウクライナ侵攻の影響で原油が高騰し輸入物資が制限され、また、円安による物価高で輸送業者も値上げせざるを得ない状況で、都心から距離がある地方では非常に集荷しづらい状況になっている。

数 量	84,211	本 (13.7%)	の減
金 額	7,427,889	円 (12.9%)	の減

- (1 2 月) 輸入品の減少と、急激な冷え込みで、出回りが悪く、全国的に相場は上向き状況だったが、上・中旬は相場に乗りきれず、集荷機能が低下し、入荷量の前年同月比23%の減量となり、中旬以降に価格が上向き前年同月より7円高となった。

数 量	258,820	本 (23.3%)	の減
金 額	18,882,568	円 (17.7%)	の減